

朴英雄代表理事 挨拶 (2014. 5. 31)

さわやかな初夏の風を感じる今日この頃でございますが、本財団は本年度、発足から3年の節目を越えて、4期目に入ることとなりました。

在日コリアン学生の勉学を手助けしたいという、ささやかな思いから有志が集まって始まった本財団が、多くの方々に支えられながら三年間活動してきたことを、私は今、感慨深く振り返っております。

汗をかきながら一人一人、また、一件一件集めた貴重な寄付を、ご協力をくださったその方々の心までも込めて、不遇な立場にいる在日コリアン学生たちに届け、微力ながらも、勉学に励もうとする学生たちを勇気づけることができたのは、三年間の活動を通して、私どもが最も自負するところでございます。

これまでの本財団の三年間は、新しく事業を立ち上げて、少しずつ本財団の認知度を高め、活動の基礎を醸成する時期であったとも言えるでしょう。

毎年、本財団の奨学金の支給を伝える「朝鮮新報」の記事、代表理事のインタビューを掲載した「朝鮮商工新聞」の記事、雑誌『イオ』2014年新年号の本財団の紹介記事は、そのときどきに内外で大きな反響を呼び起こしました。

そして、何よりも、公益財団法人として認定を受けたことに加え、今月16日、新しい事業認可を内閣府より正式に受けたことは、本財団の事業を今後より一層発展させる上で、大きな契機となります。

私どもは、3年の区切りを契機に、本財団をよりステップ・アップさせ、これまでに構築した土台に基づいて、在日コリアン学生の教育環境の回生のための一翼を堂々と担い、力強く寄与していく段階に至ったのではないかと考えております。

具体的には、今後、「奨学事業」、「国際交流助成事業」、「トップアスリート、トップアーティスト育成助成事業」を、在日コリアン学生支援の「三本柱」と位置づけ、本財団の事業として本格的に展開していく所存でございます。

「奨学事業」では、所得の低い家庭の在日コリアン高校生の支給人数を、毎年10名前後増やしていくことを目標の中心に定め、その規模をよりいっそう拡大していく計画を立てております。

「国際交流助成事業」では、対象を公募し、在日コリアン学生の参加するさまざまな国際交流事業を幅広く助成する所存でございます。

特に、日本、南北朝鮮、中国をはじめとした東アジアの友好親善に寄与し得るイベントに積極的に関与し、そのような国際交流事業に参加する、幼い小学生から大学

生・大学院生まで積極的に助成していきたいと考えております。

今回新しく始める「トップアスリート、トップアーティスト育成助成事業」では、より大胆なアプローチを目指しております。

2020年の東京オリンピック開催までを見ても、今年秋のインチョンアジア大会、2018年のピョンチャン冬季オリンピック、2019年秋、日本でのラグビーワールドカップと、この地域で行なわれる国際的なスポーツイベントは目白押しであります。

これまでも在日からは、ボクシングの世界チャンピオン、サッカーをはじめとした国際競技大会での国家代表選手を輩出してきましたが、「目指せ！金メダル」「夢のオリンピックに在日から代表を！」のスローガンのもと、そのような舞台で引き続き、在日の若い、可能性のある人材が活躍できるよう助成を行ないたいと考えております。

あわせて、音楽、美術、民族舞踊等の芸術分野における、在日の若い、有能な人材も発掘し、育てていきたいと考えております。

以上のような、在日コリアン学生支援の「三本柱」、三つの事業を滞りなく行なうためにも、財源の確保は喫緊の課題でございます。

そして、そのためには何よりも、募金対象の裾野を決定的に広げることが重要です。

これまでもそうであったように、本財団の活動の趣旨にご賛同くださる方なら、どなたからでも、国籍や民族を問わず、ご協力をいただきたいと思いますと考えております。

また、金額の大小にもこだわらず、5千円でも、また、それより少額でもありがたく頂戴したいと考えております。

本年度から、日本の方々も含めて、より広範な方々、特に比較的若い層の人々からも、寄付を積極的に募っていきたいと考えております。

私どもの募金は、単なるお金集めではなく、本財団の事業の意義をより多くの人々に広報し、理解を得る過程そのものであります。

奨学金の恩恵を希望する、すべての在日コリアン学生に愛の手が差し伸べられるよう、募金活動への格段のご尽力をお願いする次第でございます。